

健都のPRについて

健都のPRについて①

これまでの取組

- 健都のプロモーションについては、これまで、ポータルサイトの運営（イベントカレンダーの作成）、パンフレットの作成、シンポジウムの実施等により取組を進めてきた。
- こうした取組は、まずは健都のまちづくりを知ってもらうという観点から、まちづくりの経緯をはじめ、各街区における施設整備の方針やその進捗状況といったハード面の情報、ソフト事業の展望など、健都のアウトラインについてのPRが中心となっている。
- 一方で、健都におけるイベントやサービスの内容といったソフト事業の具体的な内容はまだ固まっていない状況であるため、市民の視点に立った場合、まだ十分に健都が周知されていない部分があると考えられる。



今後の課題

- 今後、2018年（平成30年）4月には、健都レールサイド公園が供用開始し、同年秋には市立吹田市民病院・駅前複合施設がオープンする予定であり、まちとしての「健都」が動き始めるフェーズに移ってきている。
- こうした中、これまでのような健都のアウトラインの紹介だけではなく、今後は、市民に健都に足を運んでもらう、また、健都のブランド価値を向上させるといった観点から、具体的なイベントやサービス等についてのPRが必要になってくるのではないか。

健都のPRについて②

論 点

○ ソフト事業のPRという観点では、本会議においても、イベントカレンダーの作成について検討し、現在もポータルサイト上で運用しているところ。

※ ポータルサイトは、レイアウト変更等によりイベント情報を見やすくする改修を検討中(平成30年度以降)

○ こうしたこれまでの取組も踏まえ、今後の健都のPRのあり方についてどのように考えるか。例えば、以下のような取組についてどのように考えるか。

【例】① PR媒体

- ・ イベントカレンダーについて、ポータルサイトのみではなく、紙媒体での配布やデジタルサイネージ等への掲載を念頭に、年間(又は一定期間)のものを作成
- ・ 吹田市や摂津市の市報における市民向けのPR(健都オープンまでに継続的に特集を組む、オープニングイベントのタイミングで大きく取り上げる等)
- ・ 引き続き、ポータルサイト運営、パンフレット作成 など

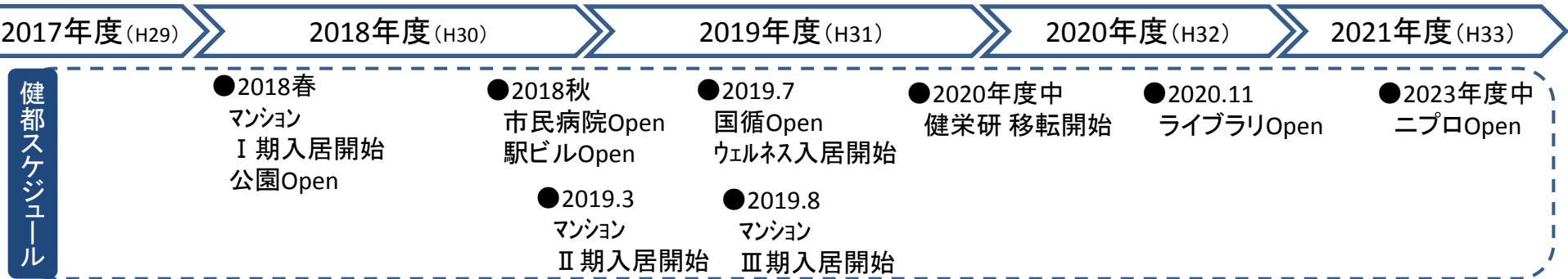
② PRイベント

- ・ 各施設のオープンに合わせたオープニングイベントの開催(開催時期が近い場合には各主体が連携、節目のタイミングには大々的に等)
- ・ 年1回など定期的に健都のまち全体で実施するイベント
- ・ 地元大学等と連携したシンポジウムや、各エリアの活用方法等についてのワークショップの開催など市民を巻き込んだ取組 など

健都のPRについて③

PRのイメージ(例)

今後、各施設が供用開始されていくことにあわせて、2018年秋の(仮称)JR岸辺駅ビルと吹田市民病院の開業を健都の「オープン①」、国循が移転する2019年7月を「オープン②」とする。



★健康増進広場
オープンイベント

★オープン①
イベント

★オープン②
イベント

★ライブラリ
オープンイベント

関大等と連携したシンポジウム開催(オープンイベント前後)

◆健都全体
イベント

◆健都全体
イベント

◆健都全体
イベント

イベントカレンダー2018

イベントカレンダー2019

イベントカレンダー2020

イベントカレンダー2021

市報での特集等によるPR

ポータルサイト・パンフレットによるPR

「健都」年間イベントカレンダー(パンフレット)の作成について(案)

概要

- 現在、ポータルサイトにおいて、各地権者が行うイベントを取りまとめて掲載しているが、サイト以外の媒体でのイベントカレンダーの周知は行っておらず、イベントカレンダー自体がどれだけ市民に周知されているかについては疑問がある。
- このため、平成30年度からは、サイト上の掲載に加え、半年間ずつでのイベントをまとめた紙媒体(チラシ・ポスター)のイベントカレンダーの作成を行い、周知を行うこととしてはどうか。

年間イベントカレンダーのイメージ

【カレンダーの期間】

- ・ ①上半期と②下半期に分けてそれぞれ別々に作成してはどうか。例えば、平成30年度の場合は以下のとおりの期間となる。
 - ①平成30年4月～平成30年9月
 - ②平成30年10月～平成31年3月

【イベント登録の手続き】

- ・ 上半期分(平成30年4～9月)は平成30年2月末までに、下半期分(平成30年10月～平成31年3月)は平成30年8月末までに、それぞれ少なくとも開催時期・場所等の概要を決定し、事務局に登録することとしてはどうか。

【掲載イベント】

- ・ 健都内で行われるイベント、健都に関わるイベント、継続的なプログラムとしてはどうか。
- ・ ただし、カレンダーの見やすさを考慮すると、掲載可能なイベント数が限定されることも想定されるため、そのような場合には定例的なものではなく、主要なイベントに限定するという方法も考えられないか。

【周知方法】

- ・ 各主体に電子ファイルを共有し、各施設での掲示、各主体のHPへの掲載、各種イベントにおける配布等の方法により周知していくことが考えられるのではないか。